

令和7年度滋賀県地域ケアサービス推進事業 報告レポート①
盲ろう者友の会と実施するワークショップ
いちご狩り in いちご園 Bon Garden



【目的】

本事業は、誰一人取り残さない共生社会の実現に向け、制度のはざまにある障害のある人たちのアクセシビリティ（社会参加のしやすさ）という視点で支援のあり方を研究し、合理的配慮の推進とアクセシビリティの向上につなげていくことを目的としています。

今年度は、障害のある人のアクセシビリティの拡充を「参加する活動を選択できること」と捉え、盲ろう者（※）が安心して充実した地域生活を送ることを目指し、近隣地域の資源を活用したワークショップを実施しました。

※盲ろう者…目（視覚）と耳（聴覚）の両方に障害のある人。見え方や聞こえ方の程度は全盲ろう（まったく見えなくて、まったく聞こえない）から、弱視難聴（少し見えて、少し聞こえる）まで様々。

【実施概要】

日程：2026年2月26日（木）12：00～15：00

場所：いちご園 Bon Garden（近江八幡市大中町 588）

内容：いちご園やいちごの品種について説明を受けた後、いちご狩りを体験。複数品種の食べ比べを行い、収穫体験や味の好みについて感想を共有しました。

参加者：盲ろう者3名、支援体験参加者3名、通訳・介助者6名、移動支援1名、意思疎通支援2名

当日は、はじめに NPO 法人盲ろう者友の会（以下「友の会」）に集合し、いちご園やいちご狩りに関する事前レクチャーを行いました。いちご園の場所や広さ、園内の様子を説明した後、いちごのレプリカを用いながら収穫方法を紹介しました。あわせて、園内で栽培されている 4 品種についても説明しました。その後、友の会スタッフより盲ろう者とのコミュニケーション方法について説明を受け、バスでいちご園へ移動しました。現地では、ハウス内の構造や品種ごとの配置を再度説明し、その後は自由にいちご狩りを楽しんでいただきました。終了後は、いちご狩りの感想や、盲ろう者と時間を共にした感想について共有しました。

【ワークショップの様子】





【振り返り】

実施にあたり、事前に友の会と打ち合わせを行いました。事務局からは、近隣の地域資源を活用したワークショップの実施意向を伝え、友の会からは、これまで盲ろう者と関わる機会のなかった人との出会いの場としたいという意見がありました。協議の結果、友の会から近く、ベビーカーや車いすでも利用しやすい「いちご園 Bon Garden」での実施を決定しました。

事前に下見を行い、いちご園のスタッフに企画の説明を行うとともに、備品の確認や、盲ろう者に必要な会場情報の提供を依頼しました。また当日は、盲ろう者の支援を体験する参加者にも加わっていただき、盲ろう者とペアを組んで活動する形としました。

当日の事前レクチャーで、会場やいちご狩りの方法について説明を行ったことで、参加者に必要な情報を十分に伝えることができました。限られた時間の中で体験を充実させるためには、事前に情報を提供することの重要性を改めて実感しました。また、事前に4種類の品種を紹介していたことにより、食べ比べを楽しむ様子が見られました。振り返りでは「何個食べたか」「どの品種がおいしかったか」といった具体的な感想が聞かれました。単なるレクリエーションにとどまらず、自分の感想を伝えたり他の人の意見を聞いたりする時間を設けることができたことも有意義であったと感じています。

盲ろう者と支援体験参加者がペアになることで、手のひら書きや、弱視で見えにくい当事者にはノートに大きな文字で書くなど、それぞれに適した方法でコミュニケーションを取りながら活動を行いました。

振り返りでは、「簡潔で短い言葉で伝えることの重要性を学んだ」「効果的な伝達方法について考える機会となった」「スムーズなコミュニケーションの難しさを実感した」といった意見があがりました。初めて盲ろう者と関わる参加者も多く、難しさや課題も感じられた一方で、関わるきっかけとしてとても良い体験となりました。

また、いちご狩りの経験について確認したところ、盲ろう者3名のうち2名が初めての体験でした。今回訪れたいちご園は、友の会の活動拠点から車で約10分と比較的近距离にあります。今後盲ろう者がおでかけやレジャーなどを検討する際、新たな選択肢の一つとなることを期待しています。



ワークショップのあとの振り返りの様子